

平成29年度第1回和泉市総合教育会議

日時：平成30年 3月29日（木）

午後3時30分から

場所：3号館3階市議会委員会室

次 第

1 議事

(1) 「いずみ希望塾」について

○平成29年度の取組状況報告について

(2) 今後の検討テーマについて

○学校の教育力向上をめざした「教職員の働き方改革・支援策」について

2 その他

3 閉会

いずみ希望塾について

○実施の状況

- ・受託事業者 株式会社 トライグループ

※プロポーザルコンペ（3社申込み、その後1社辞退のため、2社参加）を平成29年8月22日（火）に実施して決定。

- ・予算額 ￥24,043,000
- ・契約額 ￥23,066,370

○開催場所・回数

下記5会場で各35回実施

- ・和泉市北部リージョンセンター 和泉市太町552番地
- ・和泉市立青少年センター 和泉市幸三丁目1番25号
- ・和泉市立和泉図書館 和泉市府中町一丁目20番1号
- ・和泉市生涯学習サポート館 和泉市三林町1273-1
- ・和泉市南部リージョンセンター 和泉市仏並町398-1

○受講決定者数

(単位：人)

会 場		小学生			中学生				合計
		5年	6年	小計	1年	2年	3年	小計	
1	北部リージョンセンター	18	9	27	7	11	8	26	53
2	青少年センター	9	7	16	15	15	10	40	56
3	和泉図書館	19	21	40	17	11	24	52	92
4	生涯学習サポート館	11	18	29	17	16	8	41	70
5	南部リージョンセンター	3	5	8	15	5	1	21	29
合 計		60	60	120	71	58	51	180	300

○開催状況

・小学生

平日 17:00～19:00

土曜 13:00～15:00 (14:00～16:00、15:00～17:00)

・中学生

平日 19:00～21:00

土曜 15:00～17:00 (16:00～18:00、17:00～19:00)

○欠席の状況

- ・会場、月ごとに違いがあるものの、5会場全体の出席率は84.6%（1月分）。
- ・欠席する際には、保護者から前日までに受託業者に電話連絡または当日にメールにて連絡をしている。連絡がない場合には、受託事業者から家庭に欠席確認の連絡をしている。
- ・主な欠席理由として、冬季はインフルエンザなどによる体調不良が多かった。

○退会の状況

- ・これまで6名が退会。
- ・主な退会理由は、「勉強のペースがつかめたので、他の塾に行くことにした。」や「会場に行けば楽しいが、勉強そのものが嫌い。」など。

《 いずみ希望塾に通っている児童・生徒の感想（1月実施アンケートから） 》

【小学生】

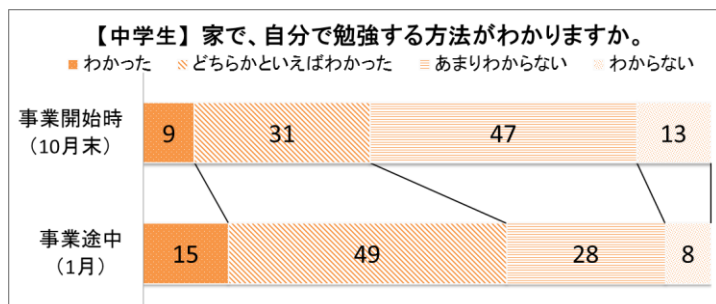
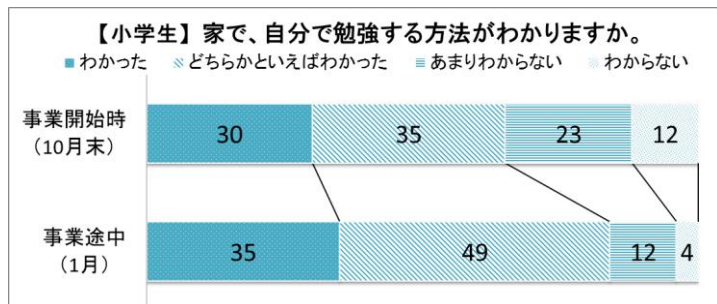
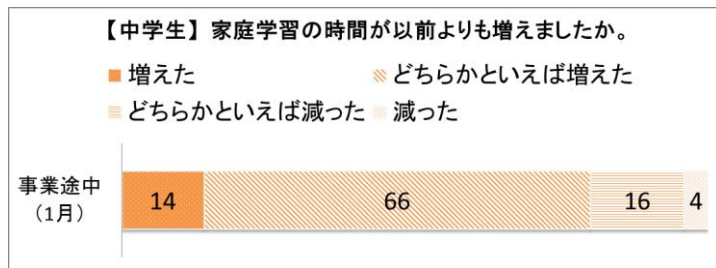
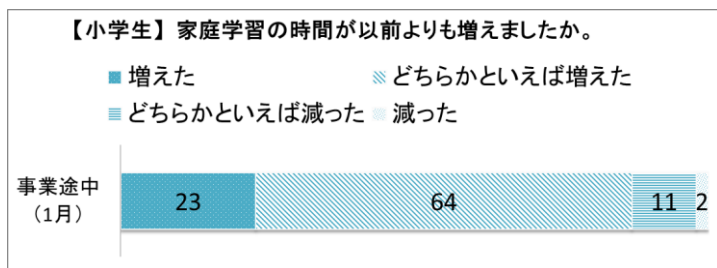
- ・いずみ希望塾でまだ習っていない漢字とか出てくるけど、次に学校でやる時、簡単にできるから良いと思う。
- ・いずみ希望塾に入ってから勉強が好きになりました。
- ・わからない問題があったら、わかりやすく教えてくれたので似ている問題は、すぐにできるのでいい。
- ・前よりもよくわかって学校でもわからない所もだんだんなくなった。テストでもいい点をとったりもして算数も苦手だったのがわかるようになった。
- ・学校の授業や宿題などの問いで、塾でやったことが出たりしてかんたんに解けたり、わすれかけていたような単元なども復習できたりしてよかったです。
- ・「いずみ希望塾」にきて小学校でのテストを 100 点取る回数が増えた。家でする勉強時間が長くなった。
- ・中学に入るためのふくしゅうとかができている気がしました。解き方を忘れていた算数だったり、授業ではくわしく習ってない事をする事ができて、いいなって思いました
- ・ほかの学校の人となかよくなり、塾がまいかい楽しみです。先生と話しやすいしコミュニケーションをとりやすい。
- ・じゅくに行くのはいやだったけど、今は思っていたよりたのしかったです。ならう前より理解できるようになったと思いました。
- ・国語はあんまり時間がかからなくて算数がおわらないから、算数の時間をちょっとのばして国語の時間を短くしてほしい。
- ・学校と教材が違うので、習っていないところもあった。

【中学生】

- ・学校では教室に先生が1人しかいないけどここはたくさんいるから、質問しやすい。
- ・説明が分かりやすい。先生がちかくにいたので聞きやすくていいなと思いました。
- ・思っていたより楽しくできる。分からない所を分かるまで教えてくれる。
- ・どんな質問でもしやすいです。又、講師の人の説明が分かりやすいです。来年も宜しくお願ひします。
- ・来年度も開催すれば次の中1・2・3年生の親が助かると思う。
- ・1学期よりも2学期の成績が上がっていたからよかった。
- ・わかりやすく、自分で勉強する時間が増えてやる気が出てきたので入って良かったと思う。
- ・家で全く勉強しないので、こんな塾にかよえて良かったと思います。
- ・理解できてきて嬉しかった。そして、勉強する時間ややり方が分かってきたから良かった。
- ・復習できるので分かりにくいところが分かるようになったのでいいです。
- ・いままでなら、勉強法が分からなかった為、だらだら勉強していましたが、塾に行くことにより苦手な部分があったので、苦手な部分を多めにすることで自分にあった勉強法が見つかったのでこの塾は自分にとって良い時間になったと思いました。0
- ・勉強があまり好きじゃなかったけど、塾の存在のおかげでイヤでも勉強の時間が出来て、理解できていなかった所をはあく出来るようになった。学校以外に色んな先生に教えてもらえる事が出来るから良かった。
- ・さいしょはくるのがいやだなと思っていたのが今はいやじゃないと思っている。またあったらもうしこむ。
- ・授業の最後に、少しだけ残って勉強を教えてもらうことは可能でしょうか？可能ならしたいです。
- ・じゅくがある日に、その日のはんいをできなかったことがよくあったと思います。
- ・ぜんぜんおしえてもらってもわからん。やり方をおしえてほしい。
- ・周りがにぎやかで集中しにくい。もう少し集中できる空気をつくってほしい。

《 いずみ希望塾 事業開始時及び事業途中のアンケート結果 》 H30.3月

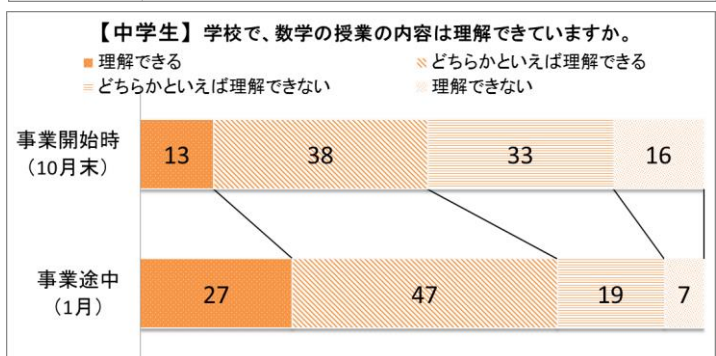
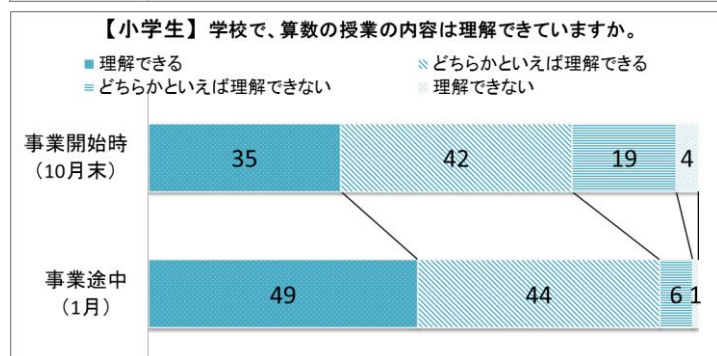
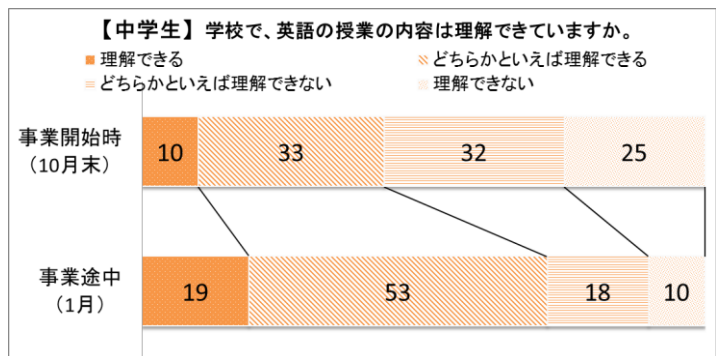
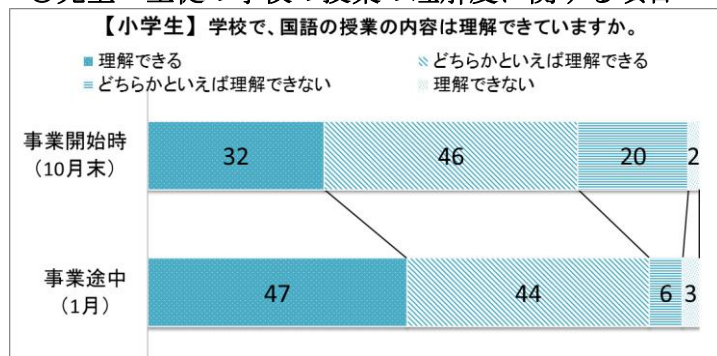
○児童・生徒の家庭での学習に関する項目



・「家庭学習の時間が以前よりも増えましたか。」の質問に対して、87%の児童、80%の生徒が肯定的な回答であり、「いずみ希望塾」に参加したことにより、家庭での学習時間が増えていることが言える。

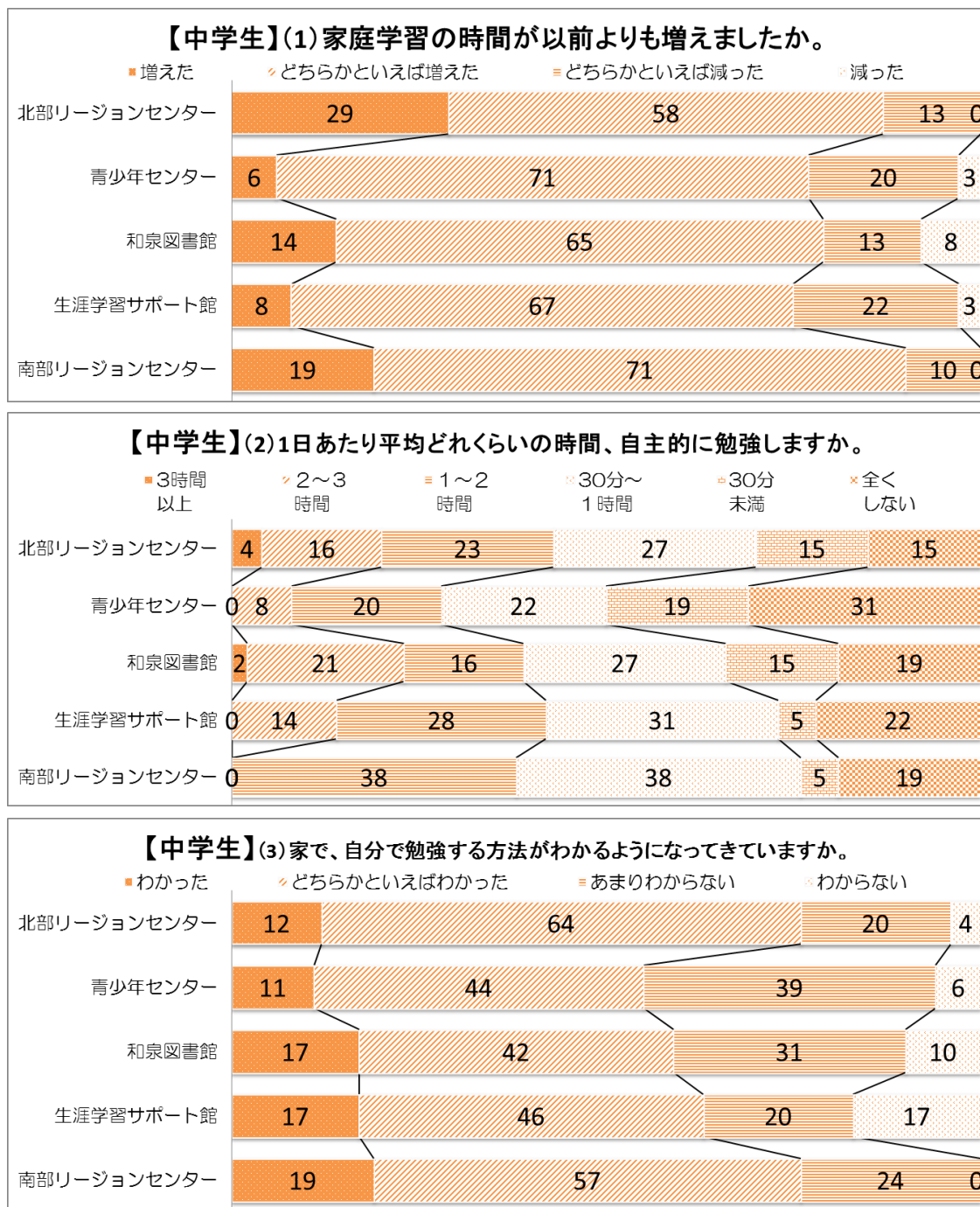
・「家で、自分で勉強する方法がわかりますか。」の質問に対して、児童・生徒ともに事業開始時に比べて事業途中の方が肯定的な回答の割合が高くなっている。「いずみ希望塾」で学習を進めることで、家庭での勉強の進め方も身につくとともに、家庭での学習時間の増加にも結びついていると考えられる。

○児童・生徒の学校の授業の理解度に関する項目



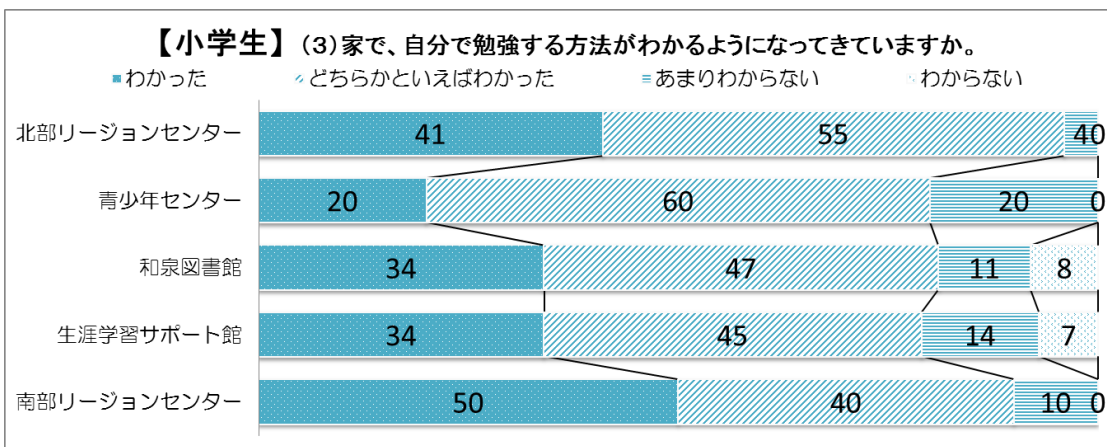
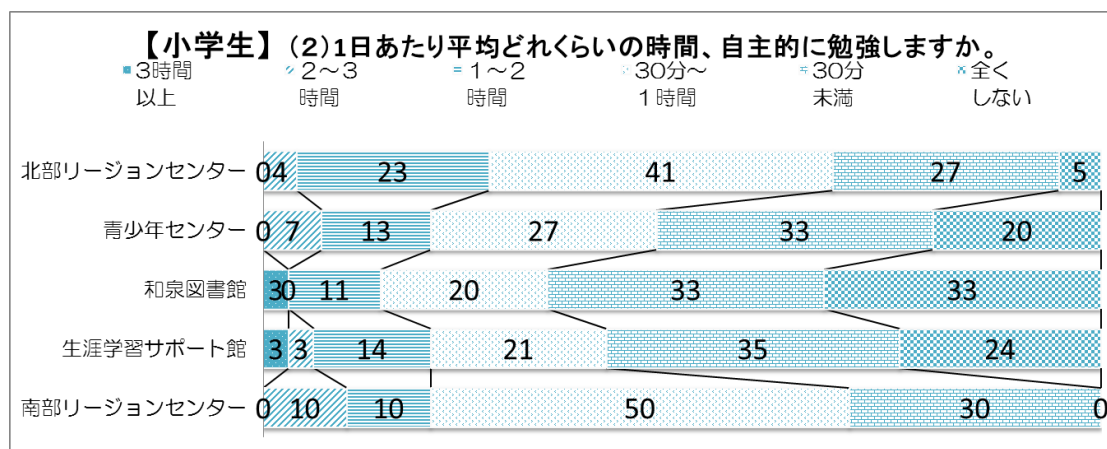
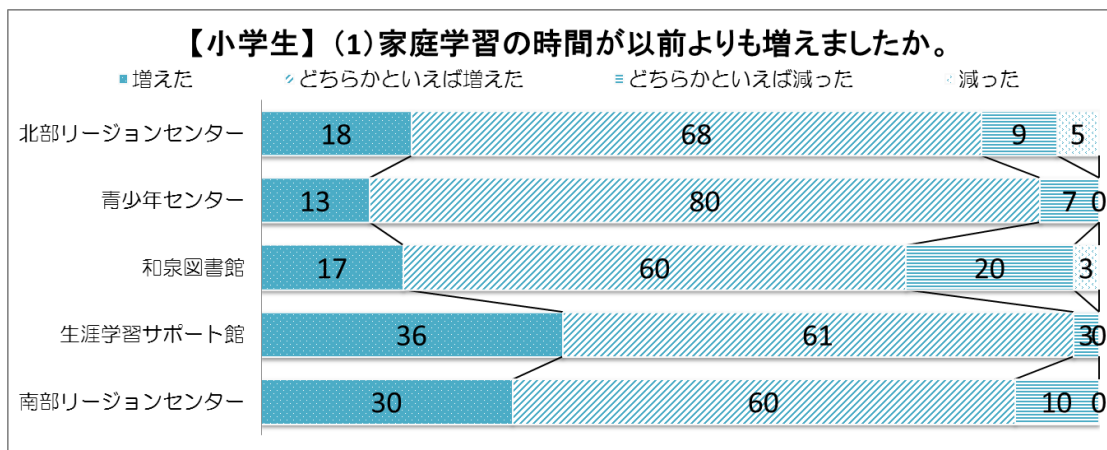
・「学校で、国語・英語、算数・数学の授業の内容は理解できていますか。」の質問に対して、事業開始時よりも事業途中の方が肯定的な回答の割合が高くなっている。このことから、「いずみ希望塾」での学習により、学校の授業の内容に対する理解度が高くなっていることがいえる。

《 いずみ希望塾 各会場別 アンケート結果 H30.1月実施 》【中学生】



- ・(1)「家庭学習の時間が以前より増えましたか。」の項目について、5会場すべてで肯定的な回答は、75%以上となっており、特に、南部リージョンセンター会場では90%の生徒が「いずみ希望塾」に通う前よりも家庭学習の時間が増えている。しかし、生涯学習サポート館会場及び青少年センター会場の生徒については、それぞれ25%、23%の生徒の家庭学習の時間が減っていることが課題である。
- ・(2)「1日あたり平均どれくらいの時間、自主的に勉強しますか。」の項目について、「30分以上」と回答した割合は会場によってばらつきはあるが、少なくとも50%以上の生徒が自主的に学習を行っている。しかし、「30分未満、全くしない」と回答した割合は、最も多い青少年センター会場で50%、最も少ない南部リージョンセンター会場で24%である。青少年センター会場の生徒の家庭学習の定着度に課題がある。
- ・(3)「家で、自分で勉強する方法がわかるようになってきていますか。」の項目について、肯定的な回答は、55~76%である。「いずみ希望塾」で学習を進めていくことで、自分自身の勉強方法を身につけることができている。一方、青少年センター会場及び和泉図書館会場の生徒については、それぞれ45%、41%の生徒が自分で勉強する方法を理解できていないことに課題がある。

《 いずみ希望塾 各会場別 アンケート結果 H30.1月実施 》【小学生】



- ・(1)「家庭学習の時間が以前より増えましたか。」の項目について、肯定的な回答は、77~97%であり、大半の児童が「いずみ希望塾」により家庭学習の時間が増えている。勉強に対する自信が付き、自ら学習に向かう姿勢が身についたといえる。一方、和泉図書館会場の児童については、23%の児童が家庭学習の時間が減っていると回答している。
- ・(2)「1日辺り平均どれくらいの時間、自主的に勉強しますか。」の項目について、「30分以上」と回答した割合は、会場によって差はあるが、34~70%である。「30分未満、全くしない」と回答した割合は、最も多い和泉図書館会場で66%、生涯学習サポート館会場で59%、青少年センター会場で53%である。
- ・(3)「家で、自分で勉強する方法がわかるようになってきていますか。」の項目について、肯定的な回答は、79~96%と高い数値を示している。多くの児童が、「いずみ希望塾」で勉強する方法を理解し、自ら進めることができるようになってきている。その中で、生涯学習サポート館会場及び青少年センター会場の児童については、それぞれ21%、20%の児童が自分で勉強する方法がわかっていない。しかし、中学生に比べて否定的な回答の割合は少なく、約半分である。

いずみ希望塾テスト結果推移

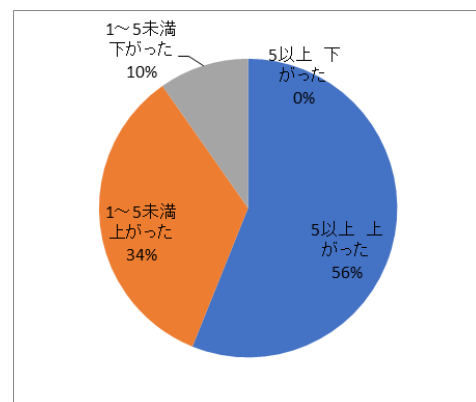
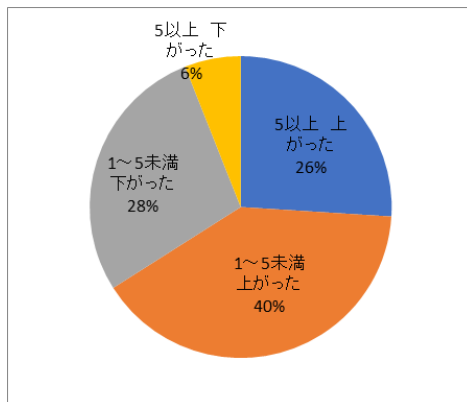
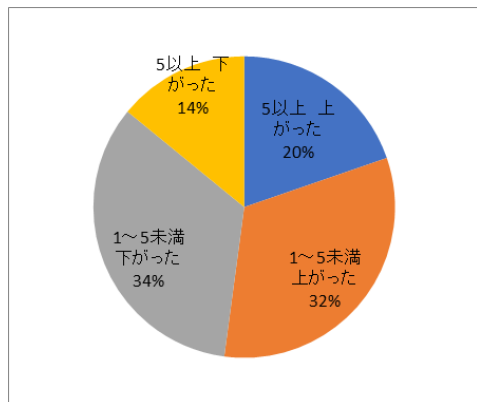
※テストによって難易度が異なるため、委託業者の全国統一テストでの各学年の総受験者（小学 5 年生 1524 名、小学 6 年生 1873 名、中学 1 年生 10637 名、中学 2 年生 10736 名、中学 3 年生 11047 名）の平均点を偏差値 50 として算出している。

～ 中学生 2 科目（数学・英語）【 偏差値 】 ～

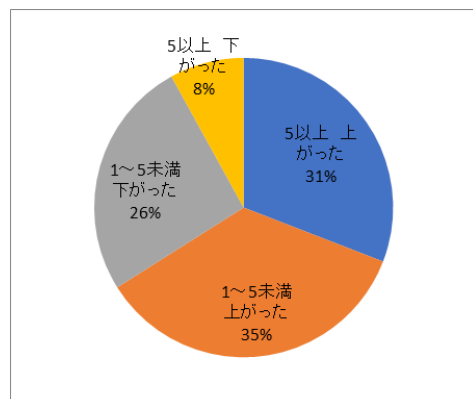
《 1 年生 》

《 2 年生 》

《 3 年生 》



《 中学生全体 》



中学生全体としては、事業開始時（1回目）のテストの偏差値よりも事業実施後（2回目）のテストの偏差値のほうが66%伸びている。特に、3年生は90%が事業開始時よりも上がり、特に56%の偏差値が5以上上がるなど、顕著な結果が出ている。また、2年生も66%の偏差値が上がっている。

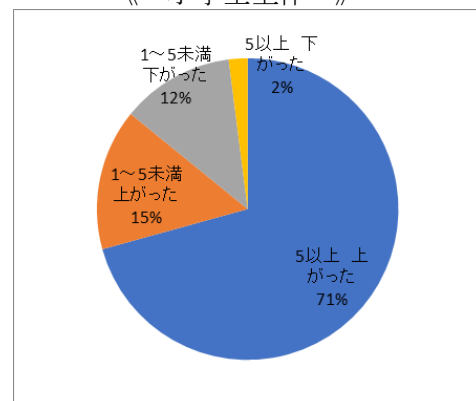
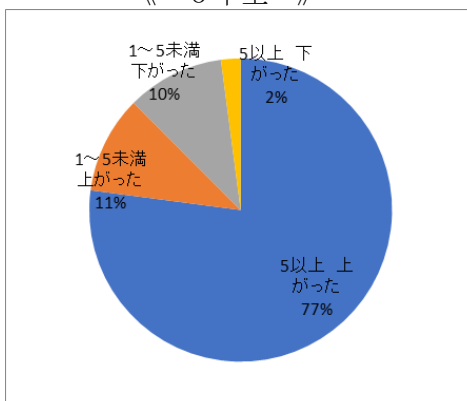
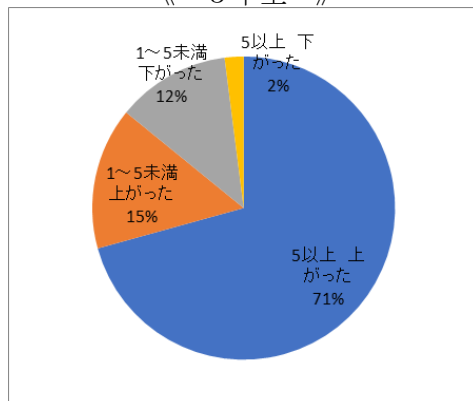
しかし、1年生では偏差値が上がった生徒の割合が52%にとどまっている。英語のテストにおいて、平均点が大幅に下がっていたこと、1回目と比べ2回目に実施した問題は出題範囲が広く取られている事、選択問題の量の違いなどにより難易度は上がっていることから、偏差値が伸び悩んだと考えられる。

～ 小学生 2 科目（国語・算数）【 偏差値 】 ～

《 5 年生 》

《 6 年生 》

《 小学生全体 》



小学校全体としては、事業開始時（1回目）のテストの偏差値よりも事業実施後（2回目）のテストの偏差値のほうが86%伸びている。5年生も6年生も偏差値が5以上上がった児童の割合は、7割を超えており、また偏差値が10以上上がった児童も半数近くになるなど、「いずみ希望塾」において学習を継続したことが顕著な結果となっていることがいえる。

いずみ希望塾 入塾児童生徒の学校教師から見てきた変容

【小学生】

○授業中の変化

特に算数の不得意な児童は、入塾前は自信がない状態で、授業に向かう姿勢が消極的であった。入塾後は挙手の数が増え、ペア学習の中で教える側に回るなど、学習意欲が高まり、授業に向かう姿勢が前向きになってきている。あきらめず最後まで取り組む姿勢が見られるようになってきている。

○家庭学習の変化

正答率が10%程度であった児童が正答数が増えるなど、家庭学習のミスが減ってきている。また、自主学習を意欲的に取り組むことで自主学習ノートが充実してきている児童が多くいる。

○成績の変化

ほとんどの学校から、集中力が高まり、成績が向上してきているとの報告がある。中には、3学期の成績がぐっと上がったという報告もある。

○児童の感想

会話や日記の中に、「楽しく行っている」、「塾に行くのを楽しみにしている」、「今後も続けたい」等、前向きな感想が多々寄せられた。しかし、一方支援学級在籍児にとっては過重負担になっているとの意見もあった。

○教師の感想

学校と塾がつながっているように感じる。

【中学校】

○授業の変化

「難しい問題に対しては避けていたが、進んで解く姿勢が見られるようになった」、「あきらめないで、最後まで取り組む姿勢が見られるようになった」など、学習意欲の向上や集中力の継続につながっている。

○生活態度

「不登校気味だった生徒が欠席しなくなり、登校状態が改善された」、「いろいろなことに自信を持って行動できるようになった」、「積極的に補習やテスト前学習に参加するようになってきた」などから、自信を深めたり意欲向上につながっていると見られる。

○成績の変化

「テストの点数に興味のなかった生徒が点数を気にするようになった」、「短期間に実力が向上した」「英語の成績が伸びてきている」との報告がある。

○教師の感想

行ってよかったと塾の効果を評価している。

今後の総合教育会議におけるテーマについて

現状での教員を取り巻く主な課題（例示）

- ・学習指導要領の改訂（主体的・対話的で深い学び）を踏まえた日々の授業改善
- ・小中一貫教育の推進による中学校区でめざす子どもの育成（中学校区の教員で会議や研修）
- ・小学校での英語の教科化に伴う授業時数増加への対応と、小学校教員の英語指導力の習得
- ・小学校教員は、基本的に常に授業を行っているため、放課後が授業の準備時間だが、会議や、研修、保護者対応等で時間を費やすことも少なくない。
- ・中学校教員は、授業以外で不登校や問題行動等に、時間をかけた丁寧な生徒指導力が求められる。放課後は、会議や研修、部活動等に時間が費やされる。

☆求められる様々な新しい教育、業務の多様化で、授業の準備、子どもと向き合う時間、研修の時間の確保が困難になっている。

⇒ 国においても働き方改革が議論されている。



教育環境の充実を行うことについて

- ・教育への投資は、将来への波及効果が期待され、投資効果の値打ちが大きい。
- ・教育が充実され、探求的な学力を向上させることで、自ら学び続け、変化が激しい社会において、新しい未知の課題に対応する力を有する人材を育成できる。



テーマ

和泉市の学校の教育力の向上をめざして

「(仮称) 教職員働き方改革・支援策」を考える



整理すべき事項

- ・教員の負担軽減内容の検討（何に取り組むことが一番効果があるか）
- ・学校の教育力の向上のために、教員が何をすべきか。
- ・双方で整理が必要。
- ・和泉市の行動目標をまとめる

和泉市の学校の教育力の向上をめざして

「学校における働き方改革に関する緊急対策の策定並びに学校における業務改善及び勤務時間管理等に係る取組の徹底について（文部科学省通知 平成30年2月9日）」を基に和泉市教育委員会事務局にて作成

1. 学校における業務改善について

(1) 業務の役割分担・適正化を着実に実行するために教育委員会が取り組むべき方策について

- | | | | |
|------------------------|-------------------|-----------------------|-------------------------|
| ①業務改善方針・計画の策定及びフォローアップ | ②事務職員の校務運営への参画の推進 | ③専門スタッフとの役割分担の明確化及び支援 | ④学校が教育活動に専念するための支援体制の構築 |
| ⑤業務の管理・調整を図る体制の構築 | ⑥関係機関との連携・協力体制の構築 | ⑦学校・家庭・地域の連携の促進 | ⑧統合型校務支援システム等のICTの活用推進 |
| ⑨研修の適正化 | ⑩各種研究事業等の適正化 | ⑪教育委員会事務局の体制整備 | ⑫授業時数の設定等における配慮 |
| | | | ⑬各学校における業務改善の取組の促進 |

(2) 中間まとめにおいて示された業務の在り方に関する考え方を踏まえて教育委員会が特に留意して取り組むべき個別業務の役割分担及び適正化について

業務内容	市としての検討事項
A【基本的には学校以外が担うべき業務】	
①登下校に関する対応	・校門管理員の増員（委託） ・教委による登下校時の青色パトロールカーによる巡回の充実 ・登下校指導員（ボランティア）が、通学路の危険箇所等を見守る。
②放課後から夜間などにおける見回り、児童生徒が補導されたときの対応	・業務時間外の留守番電話設置を検討する。 ・学校・警察等関係機関・地域の連携を一層強化する体制の構築
③学校徴収金の徴収・管理	・徴収・管理を教育委員会事務局や首長部局が担う。 ・業務を担当する教職員の業務内容を見直し、具体的な方向性を検討
④地域ボランティアとの連絡調整	・教員以外で地域連携担当を担うことを検討
B【学校の業務だが、必ずしも教師が担う必要のない業務】	
⑤調査・統計等への回答等	・調査の対象の精査や、調査項目の工夫をし、負担軽減につなげる。 ・校務支援システムを活用し、効率的に調査回答できるようにする ・教員の専門性に関わるもの以外の調査は、事務職員等が中心となって回答できるようにする
⑥児童生徒の休み時間における対応	・アルバイト支援員の活用、教員OBの参画・協力体制の整備 ・具体的な支援場面や支援時間を策定し、シルバー人材等への委託等を検討
⑦校内清掃	・教育活動として一部を残しつつ時間の縮小を検討。 ・具体的な支援場面や支援時間を策定し、シルバー人材等への委託等を検討
⑧部活動	・スポーツ推進委員や市人材バンクの活用、民間委託等の検討 ・教員OBの参画・協力体制の整備 地域スポーツクラブ等への協力(委託も含めて)を依頼し、拠点校方式による合同部活動を検討
C【教師の業務だが、内容を見直し効率化を図ることが可能な業務】	
⑨給食時の対応	・地域人材等の参画・協力 ・学校支援人材の発掘
⑩授業準備	・校務支援システムの活用により、教育センター等において教材や指導案を共有化し、準備時間を削減する。 ・理科支援員の配置を充実させる。 ・教員の補助的業務を行うサポートスタッフの配置
⑪学習評価や成績処理	・ICTを活用する環境の整備
⑫学校行事等の準備・運営	・市の行事の精選や内容の見直しについて、検討を進める組織を立ち上げる。 ・スポーツ推進委員やアルバイト支援員の活用
⑬進路指導	・校務支援システムによる対応書式の充実 ・書類様式の簡素化や統一化
⑭支援が必要な児童生徒・家庭への対応	・支援指導における専門的人材等の積極的な参画を図る。 ・法的相談を受けるスクールロイヤー等の専門家の配置

(3) 学校が作成する計画等及び学校の組織運営に関する見直しについて

2. 勤務時間管理の徹底及び適正な勤務時間の設定について

内容	市としての検討事項
①勤務時間管理	①勤務時間を客観的に把握、集計するシステムの導入
②適正な休憩時間の確保	②労務管理について管理職への指導
③正規の勤務時間の割り振りを適正に行う	③労務管理について管理職への指導
④保護者や外部から時間外対応	④留守番電話の設置やメールによる連絡対応等の体制整備
⑤長期休業中における年休の行使	⑤学校閉庁日の設定
⑥適正な勤務時間の設定に係る取組について保護者や地域への理解を得る	⑥地域教育連絡協議会等における取組の積極的な発信

3. 教職員全体の働き方に関する意識改革について

内容	市としての検討事項
①研修・人事評価などを活用した教職員の意識改革	①管理職・教員・校種に応じた内容の研修、業務の効率性の視点を加えた人事評価
②学校評価と連動した業務改善の点検・評価	②各教員の声を生かした学校運営、各校の取組の共有